

二年	国語	G アップシート	書く1
----	----	----------	-----

組	番・氏名
---	------

★体験をもとにして短歌を作ろう

◇短歌について学習した大島さんの学級では、自分の体験をもとにしたオリジナル短歌を作るようになりました。

問一 大島さんは短歌のテーマのメモとしてA～Dの体験を書き出しました。それぞれの思い出を分類すると、後のア～エのどれに当てはまりますか。

【身近な体験の中での、自分の心の動きをとめる】

【A】	<ul style="list-style-type: none"> ・地区大会の決勝 ← 一点差で負け ・県大会を逃した ・先輩たちは引退
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【B】	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の暑い日 ・アイスを買って食べる ← 当たりが出た ・もう一本食べることができた
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【C】	<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれていた先輩 ← 友達から聞いた話 ・好きな人がいるらしい ・恋が破れた
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【D】	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の朝、大雪 ← 学校へ行こうと外へ ・まだ誰も踏んでいない新雪 ・目を奪われた
-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

- ア 切なさを感じた体験
- イ 美しさに心が動いた体験
- ウ 嬉しい気持ちになった体験
- エ 悔しさを感じた体験

A		B		C		D	
---	--	---	--	---	--	---	--

問二 大島さんはAの体験を基に短歌を作ることにし、メモの内容を一文にまとめてみることにしました。次の文の空欄①～④に当てはまる言葉をメモAの中から抜き出してそれぞれ二～三字で書きなさい。

【感動の中心を明らかにして、詩の構成を工夫する】

たった(①)がとれずに(②)で(③)てしまい、(④)を逃した。

①		②		③		④	
---	--	---	--	---	--	---	--

◇まとめたことを基に、大島さんは次のような短歌を作りました。

あの一点とれなかつた決勝戦先輩との夢涙に変わる



問三 この短歌を推敲して、次のように修正しました。どのような考え方で修正を行ったのでしょうか。後のア～エから選びなさい。

【描写や構成に注意して推敲する】

あと一点ただそれだけが足りなくて先輩との夢涙に変わる

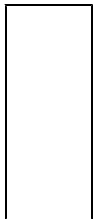
- ア 一点というのを強調して、わずかに届かなかつたくやしきを出したい。
- イ 体言止めにして、短歌の終わり方をすっきりしたものになりたい。
- ウ 具体的な言葉を多くして、決勝戦の激しい戦いを表現したい。
- エ 抽象的な言葉を多くして、読む人にいろいろ考えさせるようにしたい。



問四 みんなの作った短歌を『感動が伝わる表現の工夫』という観点でグループで読み合ったところ、大島さんの短歌に対して次の意見が出ました。観点に従った意見として最も適当なものをア～エから一つ選びなさい。

【観点に従って感想を交流する】

- ア 倒置法を使うことで感動の中心がはっきりして、印象深い短歌になっているね。
- イ 「涙に変わる」という表現から、ボールがぼんやりと見える様子がわかるよ。
- ウ 比喩を使って気持ちを間接的に例え、感動の余韻が伝わるように工夫してるね。
- エ 「ただそれだけが」という表現から、悔しい気持ちが強く伝わってくるね。



【書く1 体験をもとにして短歌を作ろう】

問一 Aエ Bウ Cア Dイ 問二 ①一点 ②決勝 ③負け ④県大会

問三 ア 問四 エ

解説 問一 短歌を作る前に、材料を集めて整理しましょう。自分の心に残っている体験を思い出して、なぜそういう気持ちになったのかを書き出していくといいでしょう。

問二 書く材料が決まったら、すぐに定型（五七五七七）に入れて考えるのではなく、短い一文にまとめてみましょう。そうすることで書く内容が整理され、定型にスムーズに収めることができます。

問三 定型にまともだったら読み返してみましよう。自分の表現したかった思いが十分に伝わる作品になっているでしょうか。学んだ表現技法を生かして工夫してみるのも一つの方法です。

問四 感想を交流する際には、観点を決めるとみんなの意見を交流しやすくなります。自分の作った短歌について、工夫したところ、悩んだ所などを観点に意見をもらおうと、作品のさらなる向上につなげることができます。観点に従った意見は「エ」です。」